

「御国が来ますように！！！！」

～新しい宮 神様とは何か～

ヨハネ2：13～21 II 歴代誌1：1～12

私達の今の生活の中でラインを使う事が増えていると思いますが、言葉のやりとりで、相手が伝えたかった意図とは違う受けとり方をして、その言葉を誤解しているような問題がよく起きているそうです。その様に、聖書も言葉として届けられています、そこから神様が何を伝えたかったのか間違えて受け取っていないでしょうか？

■ 本来の目的からズレた行い

イエス様が公生涯を歩まれていた時代、イスラエル民族がモーセに率いられて出エジプトをした時の奇蹟の証として年に1度の記念として過越の祭りを祝う為に、ユダヤ人達も生け贄として捧げる鳩や羊などの生き物を持って各地から集まってきていました。

しかし、当時、神殿に検問があり、大祭司達は、人々が持ってきた動物を見て、生け贄としては不合格として10倍以上もの高い値段の生け贄用の動物を売りつけていたのです。

過越の祭は、年に1回、約束しても果たせない、失敗して罪を犯してしまう自分達の罪の代償として血を流す命の犠牲が必要である事を覚えておく為であったにもかかわらず、その本来の目的とは違う事を神殿で行っていました。

その売り買いをしていた場所にイエス様は足を踏み入れて、細縄で鞭を作り、大祭司の用意していた生け贄用の動物達を神殿から追い出し、検問にいた両替人の金をまき散らします。そして、鳩を売っていた者に向かって「わたしの父の家を商売の家としてはならない(ヨハネ2：16)」と言われました。これは、神の神殿、教会が商売をしてはいけないと伝えているのではありません。神の宮である神殿で行われている事の本質が変えられてしまっていた事が問題であると伝えているのです。

私達は毎週教会に集まり礼拝をしていますが、礼拝は受けるものではなくて捧げるものです。本来、神様の前に感謝を携えて出て行くので、場所はどこでも良いのです。立派な建物や設備も不要です。しかし、まだ神様を知らない人が神様に会える様に、内容が伝わりやすいように、聞き取りやすい音響設備やくつろげる環境が必要なだけです。又、地域や社会から認められ宣教に役立つ様に建物を整えているだけです。全ての動機はこれから神様に会おう人達に神様の愛が伝わる事です。本質は愛の心なのです。

■ 見えるものに捕らわれる心

当時神殿にいて、怒るイエス様の姿を見たユダヤ人達は、「あなたがこんな事をするからにはどんな印を見せてくれるのですか」と言いました。当時は預言文化なので、もしかするとメシアかもしれないと思っているので「メシアなら印を見せてみる」と証拠を求めているのです。

なぜ、こんな事が起こるのかわからならないという事が私達の人生にもあります。でも私達は本物になっていかないと行けないので、一つ一つの事にしるしが起きたり、理由が教えられるわけではありません。だから私達は、見える所において起こる出来事一つ一つに対して、影響を受けないように注意しなければいけません。

イエス様は、ご自分の体の事を神殿にたとえて、この神殿が壊されたのなら、3日で建て直すと言われたのですが、ユダヤ人達は、建てるのに、46年もかかった神殿を自分で壊しておいて、3日で建てると言うのかと言っています。壊したのは、自分達なのに、イエス様が壊したと偽証させて、この後、パリサイ人達はイエス様を十字架につける決断をしていきました。この様な罪の心は、自分が壊したのに、他の人がした、神様がしたと人のせいにして、結局は自分の人生も無駄だと言って壊してしまっているのです。

■ 何を求めるのか

パリサイ人達はいつも心の中ではお金を数えて、心はお金にあり、お金が神様になっていました。でも外側では麻布の服を着て質素にして偽った姿を人に見せていました。偽る事は恐ろしい事です。多くの人は

権力を持つとお金を神様にして失敗してしまいますが、ソロモン王が大切にしていた事は多くの民に仕える事でした。かつて、モーセがイスラエルの民に仕え導いた様に、自分もモーセの様にならないといけないと思っていました。民の事を、王でありながら、自分より優れた存在として、大いなるあなたの民と呼び、その民に仕える事が出来る様に、神様に知恵と知識を求めました。モーセも神様から呼び出された時に、自信がありませんでした。ソロモン王も自信がないのでモーセ同様神様に求めたのです。

知恵はこれから先の事を教えてくれる、知識によらない神様の考えロゴスです。一方知識は過去から学ぶものです。神様は過去から学んだ事に対して新しい知恵を与えてくれるので、知識も必要です。今の自分の問題が超えられない程大きなものだと思っていたとしても、過去の歴史の中に起きた事を見ると、必ず脱出の道がある小さな事に過ぎないという事がわかるからです。私達は判断を間違わないように、罪を知らないといけません。今という小さな事に振り回されるのではなく、その小さな石を取り除かないといけません。

■ 神殿とは何か

・イエスキリストの体：私たちはキリストの体の一部、だから神を愛し人を愛そうとする。

・祭司となった私たち：祭司私たち・誰かの為に仕える場所、それが教会。

・神殿とは私達：神殿＝イエスキリストのからだ・神殿にはふさわしくない私達が戻る事ができる。

ソロモンが神に出会ったように私達も願い出会いたいのです。

神殿とは、イエスキリストの体。祭司となった私達、あなた達です。神殿とは何かを示す為にイエス様は来られました。神殿とは、建物ではなく、神を愛し、隣人を愛する事。神そのものです。私達祭司が仕える場所です。誰かの罪を背負って悔い改め、とりなしの祈りをする事、民を愛して、導くという事です。

■ あなたの神殿は外か内か

パリサイ人のように、自分、お金が神様になっていて、本物の救い主が来ててもわからないような、偶像の心はないでしょうか？

自分一人である時に何を思い、何を口に出しているのでしょうか？いつも、心に浮かんで切る事、これがあなたの神になりうる事です。お金を使う時に、この事にはあまり考えずに使ってしまう、どんなにしても欲しいと思って心が引っ張られている事は何でしょうか？

又、神様のメッセージを聞かせなくする事は何でしょうか？

あなたの神殿は外側ですか？内側ですか？外側だけきれいに見せている人も沢山います。

■ さいごに

礼拝とは何でしょうか？神様と一緒にいる事を確認する時間です。だから、心が神様に向かっていないまま、教会に来て参加するだけでは、何の意味もありません。神様は私達が本物になれる様に、いつも一緒にいて、つまずいても倒れない様に見守ってくれています。その神様の愛をいつも私達が感じて歩いて行ける事を願っておられます。作りかけの建物のように荒削りで色々あった人生でも、多くの人が憩う事の出来る泉となれる事を神様はあなたに伝えたいのです。神様を礼拝すると知恵が与えられ、見えない者でも、見えると言える者になります。その為に、自分の中にパリサイ人達のような虚栄を作る事を辞めて、自分の中に出来た、偶像礼拝を捨て去って行きたいと思います。あなたが、傷ついて、痛んだ現実があるなら、もう、誰かを指さして、これ以上壊すのではなく、私の所に来なさい、私に祈りなさいと神様に従って行きたいと思います。従わない事は偶像礼拝の罪、従う事は全ての生贄に勝ります。自らを神の神殿として完成させていく事を邪魔するものを捨てていく事を今日決断し、神の神殿として完成を目指していきましょう。

(要約者:日名 陽子)

(2023年6月11日)